

PLEN Robotics 株式会社

所在地 大阪市北区豊崎 4-6-3
クレピス 21 303
事業内容 ロボットの研究・開発・製作
E-mail info@plenrobotics.com

接客業務の自動化、省力化を実現する IoT デバイス

実父が経営していた企業の社内ベンチャーからスタートしたプロジェクトで、2018年12月に「PLEN Cube」をリリース。医療、介護、学校関連への販路開拓が進められている。

沿革

◆ 創業者の経歴、起業に至る経緯

代表取締役の赤澤夏郎氏は学校卒業後、プロスキーヤーとして活動。その後、2004年に実父が経営するシステクアカザワに入社し、金属加工業に従事した。

同年、同社の社内ベンチャーという位置づけでプレンプロジェクトを別途発足。ロボット開発を行っていた実父の影響もあってプレンプロジェクトの新規事業として、二足歩行ロボットの開発を開始した。その後、プレンプロジェクトにてロボット研究を深く進め、共に開発を進める仲間の助けもある中で、培った技術を幅広く、日常生活の中で人々の役に立つロボットを開発したいとの思いから「PLEN Robotics」を設立し、「PLEN Cube」の開発に至った。

◆ 事業にかける思い

実父の経営するシステクアカザワの社内ベンチャーとして発足したプレンプロジェクトにて16年間研究を続け、主に子供向けのプログラミング教育、研究に利用されるロボット開発及び販売を進めている。

子供たちに技術を伝えることにもやりがいを感じていたが、当社が培ってきたロボット開発技術を更に大きな市場においてチャレンジしたいという思いが強くなり、当社にて「PLEN Cube」の開発に注力することとなった。

今後は当社が開発した製品が生活の一部に溶け込み、特別視されない生活や社会のインフラになるような製品開発を進めていきたいとしている。

特徴・強み

◆ ビジネスモデルとその特徴

【PLEN Cube】



当社設立後、幅広い分野に対応できるサービスロボットの開発に着手。こうした中で、AIテクノロジーによる対人接客業務の自動化、省力化を目指し、顔認識カメラ、IoT リモコンを搭載したパーソナル・アシスタント・ロボットの「PLEN Cube」を開発し、2018年12月にリリースしている。

カメラによる顔認識や音声対話を可能とする当社の主力製品で、シンプルなデザインをイメージし、幅広い場所にて利用可能としている。

サービスとしては、基本情報をPC等の端末に登録し、「PLEN Cube」に実装。出欠管理や、注文決済、健康情報の登録等のサービスを提供している。

各所でテスト導入が進む中で、都市部、大企業だけではなく、中小企業、地方などのネットワーク環境が整っていない企業でも、スムーズに利用できることをコンセプトとしている。

なお、「PLEN Cube」の顔認証限度については

500名に設定されており、顧客が利用するシステムと連携させることも可能である。

◆ 強み・アピールポイント

社内ベンチャーとして立ち上げたプレンプロプロジェクトから、長年ロボットの開発に携わっていることもあり、同社の技術力を共有し、当社においても相応の技術力を有している。PLEN Roboticsの代表の父で、システクアカザワの代表である赤澤洋平氏は、企業・研究者が結成したロボットの研究開発コンソーシアム「Team Osaka」に参加。同社を含め、同コンソーシアムの中でロボット開発に関して高い技術力培っている。

また、当社製品の「PLEN Cube」の量産は中国深圳のEMSへ外注委託、事業シナジーのある代理店通じて販売しており、当社はハードウェア、ソフトウェア開発に注力することができる。

将来展望

◆ 今後の事業展開

5年後、10年後の目標とする到達点やロールモデル

単に顧客に対して健康チェックをするだけではなく、音声対話を行い、端末1台で決済まで行えるサービスを提供し、社会のインフラに組み込むことを目標としている。

将来的には、世間一般に広く役に立つという観点で、ハードウェアを作るだけではなく、日常生活の一部となるような総合的なサービスを提供できる企業へと成長することを目標として掲げている。

◆ 今後新たに開発したい商材・サービス

拡充したい販路（ターゲット層）

「PLEN Cube」を開発して以降、診療所や病院等の医療関係、老人ホームやデイサービスセンター等の介護事業や、学校をターゲットとしていたが、今後についてはホテル、旅館等の宿泊施設や飲食店、美容サロンのほか、会員制のフィットネスクラブ等における入退室管理用途として随時販路を拡充させる計画。5年後には約1万施設への「PLEN Cube」の導入を目指し

ている。

このほか、商店街などの地方活性化につながるサービスの提供も構想として挙げられる。

PR事項

◆ 提供サービスにおけるPR事項

当社の主力事業であるパーソナル・アシスタント・ロボット「PLEN Cube」については、長期間及び多額の費用をかけて開発・完成させた製品である。

開発当初から、無人化・省力化するにあたり、一番のネックとなるのはレスポンスの速度であったが、顔認証など処理能力を上げて、レスポンスを上げ、機械と対峙したときの数秒間のずれなどの違和感を無くす取り組みに注力した。将来的には、お客さんが店舗や施設に来たときに、注文を音声対話で受け付けて注文ができ、かつ決済までをこの端末1台で完了させるようなサービスを目指している。リリース前には、ヨーロッパアンリゾートカフェ CRUX Kafeoなどで注文・決済ツールとしてテスト導入を行い、2018年12月にリリース。導入実績としては、長崎県のハウステンボスにある世界初のロボットホテル「変なホテル ハウステンボス」が挙げられ、ホテル内の「変なバー」で、バーテンダーとして、注文受付や決済、カクテルマシーンなどをコントロールしてドリンクの提供を行っている。近年、従来から顔パスによるサブスクリプション制度を検討しているも手段がないと困っている企業は多く、コワーキング&メイカースペース「おおたfab」では、会員の顔写真を登録し、顔認証による来場者の記録や出欠簿として利用するほか、音声で掃除ロボットや3Dプリンタを操作するために、「PLEN Cube」を導入している。

このほか、介護、医療、学校関連にて徐々に実績を積み上げ、他社との提携サービスも行っており、宮崎県延岡市と連携協定を結び、同市内の保育所・介護施設に導入している。

会社概要

設立：2017年6月

資本金：29,203千円

従業員数：6人

URL：<https://plenrobotics.com>

主力サービス開始時期：2018年12月